大会報告

千の雪になって

木村佳司

スキーオリエンテーリング真室川大会 2009　2009 年 2 月 7-8 日 山形県真室川町

ルスツ世界選手権を楽しみにしていた故内山孝博。その思いは千の雪となりテレインに降り積もった。

2009 年 2 月 7-8 日 山形県真室川町
スキーオリエンテーリング大会 2009

無念！ 内山さんが

内山孝博氏の訃報が流れたのは 2009 年 2 月 2 日。真室川大会の 5 日前。この訃報にスキー0 関係者は愕然とし、力が抜けそうになった。

内山氏の静養先であった福岡県に多くのスキー0 関係者が駆けつけ最後のお別れをした。内山孝博氏はクロスカントリースキーウェアを身につけて天へと旅立っていった。

奇跡の復帰を信じて

日本スキー0 関係者の中では兄貴分としてトレーニングを行い、裏磐梯高原でのスキー0 大会開催を行ってきた。

ルスツ世界選手権の実行委員会にも名を連ね、誰よりも世界選手権を楽しみしていた。

2 年前に突然肺がんが見つかり、即刻入院、片肺を切除。当然スキー0 から遠ざかった生活になった。

だが片肺リハビリから復帰し、1 年前に開催された山形スキー0 大会では運営者として復帰していたのだった。この驚異の復帰した姿を見て、筆者・木村は本当に嬉しく感じたものだった。

だが、がんの転移が見つかり再入院。抗がん剤など、あらゆる苦しい治療を続け再起を図ったがその願いむなしくこの 2 月 2 日に天国へと昇った。

言葉にならないチームワーク

真室川大会の実行委員にも内山氏の訃報は衝撃だった。しかしここで大会に穴を空けるわけにいかない。実行委員は山形・真室川に向かい大会の準備を行ったのだ。

真室川大会前日の金曜日には最終のコース整備作業が行われた。誰も多くは語らない。だが皆判っていた。本当は内山氏が一番その場に居たかったということ。

スノーモービルの名手で何日も前からコース整備を行ったのは高橋仁紀。その後ろを山本賀彦の乗るモービルでトラックを踏み固める。筆者・木村は高橋氏のモービルに乗り、地図の確認、GPS 操作によるデータ収集を行う。何日も前から真室川で準備を続ける武石がフラッグとコントロールユニットを取り付けてゆく。

サンプリングが終わった GPS データをコンピュータ（OCAD）に展開し、地図修正、全コントロール位置の確定を行う。疲労で力尽きたところにコースプランナー高島が最終便の新幹線で到着。撃沈した木村が気づいたときは朝。ロング種目の地図がいつのまにか出来上がっていた。

ロング種目は成功のうちに終了した。

スキーオリエンテーリングに夢中の故内山孝博（2005 年 2 月 26 日 北海道ルスツ）
このルスツのテレインで夢にまで見た世界選手権が開催される。

電波と雪に乗って

真室川大会 2 日目の朝 6:00。役員部屋の TV から闘病中ながらどこか元気そうな内山孝博氏の姿が映し出されている。TV 朝日系列の番組「テレメンタリー」の放送が真室川大会期間中に行われていたのだ。この番組は「がん友」を励ますアスリートの物語。今回訪問先は 2009 年正月の内山孝博氏。その放送がこの日だった。スキー0 にかける思いが電波に乗り、そして真室川に届いたのだ。

雪不足の中、昨夜から降り積もった雪にも内山氏の思いが乗っている気がした。

気合入れてスプリント種目の準備を開始する。大雪の予報は外れて快晴になった。選手にはよいコンディションとなった。

内山氏の思いに真室川役員は応えることができたと思う。今度は選考された日本代表選手がルスツでそれぞれの思いをぶつけることだろう。

（木村佳司）